

2018年3月期第3四半期 機関投資家・アナリスト向け電話会議
質疑応答要旨

日時：2018年2月14日 19:40~20:25

回答者：執行役員 経営企画ユニット長 隅野 俊亮

＜業績予想修正＞

Q1: 第一生命の業績予想修正後の基礎利益が3,900億円から4,300億円に増えている要因について教えてほしい。

A1: 今回の基礎利益予想の上方修正は、基本的に、第一生命における順ぎやの上振れを反映させたものとお考えいただきたい。

Q2: 期初計画から比べると、基礎利益は900億円の上振れとなるが、これは当初から想定できなかったのか。今期、二度業績予想を上方修正している理由について教えてほしい。

A2: 基礎利益のうちの順ぎやについては、その改善に向けて自助努力を行っている部分と相場に依存する部分がある。具体的には、投資信託の解約益や配当などのキャピタル性の利益は内外株式市場の影響を受けることとなる。キャピタル性の利益の今期の規模感をお示しすれば、通期で対前年比250億円（税後）程度の増加と見通している。

Q3: 今期の利益を上方修正したが、その分をリスク削減に活用することはできなかったのか。資本充足率もターゲットには達していないと思うが、例えばデュレーション mismatchesの解消を一層促進するなどという選択肢はなかったのか。

A3: 従来より、ALMの観点からスワップ等を活用したデュレーションコントロールを実施している。現在の金融環境において、現物資産を用いてデュレーション mismatchesを短期間で解消することは総合的に考えて賢明ではないと判断しており、その上で、規律を持ったデュレーションコントロールを実施している。

Q4: プロテクトティブについては、繰延税金負債取崩益の影響以外は今期の業績見通しに変更はないと理解してよいか。

A4: ご認識の通りである。

＜第一生命業績＞

Q5: 今年4月の標準生命表改定に際し、第三分野商品は値上げ・据置き・値下げのいずれを考えているか、現時点での感触を教えてください。

A5: 現在、社内で鋭意検討中であるが、健康増進をキーワードにした商品設計を予定している。価格戦略については、競争関係に影響するものであるため、現時点では回答を差し控える。

＜第一フロンティア生命業績＞

Q6: 米国の金利上昇による業績への影響はいかがか。

A6: 外貨建て負債に対しては、資産をマッチさせる形で運用しているため、実体として基本的に影響はない。また、第一フロンティア生命の外貨建て商品の多くは豪ドル建てとなっている。

＜プロテクティブ業績＞

Q7: 米国の税制改革によるプロテクティブの来期利益への影響について、教えてほしい。

A7: 現在精査中だが、総じてプラスの影響を想定している。規模感は二桁億円レベルの増加とお考えいただきたい。

Q8: 二桁億円レベルの増加というのは、今期の当初予想であった 310 百万米ドルレベルの水準に対して上乘せとなるということか。

A8: ご認識の通りである。

＜ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (EEV) ＞

Q9: 米国の税制改革に伴うプロテクティブの EV への影響は。

A9: 税率が下がるだけでなく、生命保険業界に固有の増税要因もあるため、現在精査中である。

Q10: 第 3 四半期累計の新契約価値について、第一生命単体は上半期の約 1.5 倍と説明があったが、グループについてはいかがか。

A10: 第 3 四半期累計の新契約価値を計算していないグループ会社もあるため、詳細は回答を差し控えるが、グループ新契約価値についても約 1.5 倍程度と見ている。

＜グループ業績＞

Q11: 今期のグループ修正利益の考え方について、資料 29 ページのグラフのうち、実質的な成長としてはどの部分を見ればよいのか、今期の実質的な業績に対する評価について、教えてほしい。また、今期の成長は来期以降の新中期経営計画期間でも継続可能なのか、教えてほしい。

A11: 今期の業績予想修正後のグループ修正利益は 2,300 億円程度。しかしながら、資料 29 ページのグラフで示した濃紺部分は、金融環境等の外部環境により変動したもので来

年度以降に継続するものではない要素が相応程度あるということを示している。この部分を除いた 2,100 億円程度を今年度利益の実態ベースと認識している。来期以降の新中期経営計画における利益水準については、現時点では明確に申し上げられないが、グループ修正利益がこの 2,100 億円水準から一定程度成長していくことを見込んでいる。詳細は、新中期経営計画発表までお待ちいただきたい。

Q12: 資料 29 ページにおいて、標準責任準備金の積増し負担の増加は、一時的要素ではなく保険関係損益の内訳に含まれると理解してよいか。また、来期の見通しについて教えてほしい。

A12: ご認識の通りである。なお、標準責任準備金の積増し負担の来期以降の見通しについては、来年度の新商品や販売動向にも依存するため、現時点では予見を持っていない。

＜株主還元方針＞

Q13: グループ修正利益を大幅に上方修正したにも関わらず、配当予想を据え置いた理由について、教えてほしい。

A13: 株主還元については、今年度決算の着地や来期以降の見通しを勘案しながら、現金配当と自己株式取得のバランスも含めて検討していく。

(注) 上記内容については、理解しやすいように、部分的に加筆・修正しています。

【免責事項】

本資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社（以下「当社」という。）は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限らず、「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現が含まれます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。